

PCT/JP 2004/008311

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

15.6.2004

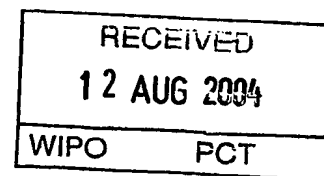
別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application: 2003年 7月15日

出 願 番 号
Application Number: 特願2003-274994
[ST. 10/C]: [JP 2003-274994]

出 願 人
Applicant(s): 東海興業株式会社
タカラ化成工業株式会社

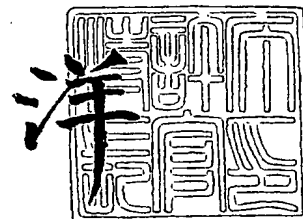


PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2004年 7月30日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小 川



出証番号 出証特2004-3067568

【書類名】 特許願
【整理番号】 P03044
【提出日】 平成15年 7月15日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 B60J 1/00
E06B 5/00

【発明者】
 【住所又は居所】 愛知県大府市長根町四丁目 1 番地 東海興業株式会社内
 【氏名】 天野 勝之

【発明者】
 【住所又は居所】 愛知県大府市長根町四丁目 1 番地 東海興業株式会社内
 【氏名】 鈴木 章広

【発明者】
 【住所又は居所】 愛知県大府市長根町四丁目 1 番地 東海興業株式会社内
 【氏名】 田村 達也

【発明者】
 【住所又は居所】 愛知県岡崎市栄町 2 丁目 2 2 番地 タカラ化成工業株式会社内
 【氏名】 近藤 久夫

【特許出願人】
 【識別番号】 000219705
 【氏名又は名称】 東海興業株式会社

【特許出願人】
 【識別番号】 591166260
 【氏名又は名称】 タカラ化成工業株式会社

【代理人】
 【識別番号】 100098420
 【住所又は居所】 名古屋市中区金山一丁目 9 番 1 9 号 ミズノビル 4 階
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 加古 宗男
 【電話番号】 052-322-9771

【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 036571
 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】
 【物件名】 特許請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 図面 1
 【物件名】 要約書 1

【書類名】 特許請求の範囲**【請求項 1】**

所定の窓枠部に装着可能な窓板に、前記窓板と前記窓枠部との間の隙間を塞ぐために前記窓板の少なくとも一部の外周縁に沿って一体的に形成されたポリマー材料製の長尺な遮蔽部材と、前記窓板を前記窓枠部に対して位置決めするために前記窓板の外周縁の裏面で前記遮蔽部材から前記窓板の面中心側に離れて固着された位置決め部材とを設けた窓組立体を製造する方法であって、

前記窓板のうちの前記遮蔽部材の接着予定領域と、前記位置決め部材及びこれを保持する保持部の接着予定領域に、両方の接着予定領域の接着剤層が所定の接着剤連続領域を介して連続するように接着剤を連続的に塗布する接着剤塗布工程と、

前記遮蔽部材を成形するためのキャビティと前記保持部を成形するためのキャビティとこれら両キャビティを前記接着剤連続領域以外の位置で連通するポリマー材料流動用キャビティとを有する射出成形型内に、前記接着剤が塗布された窓板と前記位置決め部材をセットして、所定のポリマー材料を射出して充填することで、前記遮蔽部材と前記保持部を前記ポリマー材料流動用キャビティによって形成される材料流動用連結部で連結した形状に成形して前記遮蔽部材と前記保持部を前記各接着剤層を介して前記窓板に接着固定する成形工程と、

前記成形工程後に前記材料流動用連結部を除去する工程と
を含むことを特徴とする窓組立体の製造方法。

【請求項 2】

所定の窓枠部に装着可能な窓板に、前記窓板と前記窓枠部との間の隙間を塞ぐために前記窓板の少なくとも一部の外周縁に沿って一体的に形成されたポリマー材料製の長尺な遮蔽部材と、前記窓板を前記窓枠部に対して位置決めするために前記窓板の外周縁の裏面で前記遮蔽部材から前記窓板の面中心側に離れて固着された位置決め部材とを設けた窓組立体を製造する方法であって、

前記窓板のうちの前記遮蔽部材の接着予定領域と前記位置決め部材を保持する保持部の接着予定領域に、両方の接着予定領域の接着剤層が所定の接着剤連続領域を介して連続するように接着剤を連続的に塗布する接着剤塗布工程と、

前記遮蔽部材を成形するためのキャビティと前記保持部を成形するためのキャビティとこれら両キャビティを前記接着剤連続領域以外の位置で連通するポリマー材料流動用キャビティとを有する射出成形型内に、前記接着剤が塗布された窓板をセットして、所定のポリマー材料を射出して充填することで、前記遮蔽部材と前記保持部を前記ポリマー材料流動用キャビティによって形成される材料流動用連結部で連結した形状に成形して前記遮蔽部材と前記保持部を前記各接着剤層を介して前記窓板に接着固定する成形工程と、

前記成形工程後に前記材料流動用連結部を除去する工程と、

前記成形工程後に前記保持部に前記位置決め部材を装着する工程と
を含むことを特徴とする窓組立体の製造方法。

【請求項 3】

所定の窓枠部に装着可能な窓板に、前記窓板と前記窓枠部との間の隙間を塞ぐために前記窓板の少なくとも一部の外周縁に沿って一体的に形成されたポリマー材料製の長尺な遮蔽部材と、前記窓板を前記窓枠部に対して位置決めするために前記窓板の外周縁の裏面で前記遮蔽部材から前記窓板の面中心側に離れて固着された位置決め部材とを設けた窓組立体を製造する方法であって、

前記窓板のうちの前記遮蔽部材の接着予定領域と前記位置決め部材の接着予定領域に、両方の接着予定領域の接着剤層が所定の接着剤連続領域を介して連続するように接着剤を連続的に塗布する接着剤塗布工程と、

前記遮蔽部材を成形するためのキャビティと前記位置決め部材を成形するためのキャビティとこれら両キャビティを前記接着剤連続領域以外の位置で連通するポリマー材料流動用キャビティとを有する射出成形型内に、前記接着剤が塗布された窓板をセットして、所定のポリマー材料を射出して充填することで、前記遮蔽部材と前記位置決め部材を前記ポ

リマー材料流動用キャビティによって形成される材料流動用連結部で連結した形状に成形して前記遮蔽部材と前記位置決め部材を前記各接着剤層を介して前記窓板に接着固定する成形工程と、

前記成形工程後に、前記材料流動用連結部を除去する工程とを含むことを特徴とする窓組立体の製造方法。

【請求項 4】

前記接着剤塗布工程において、前記窓板のうちの前記位置決め部材及び／又は前記保持部の接着予定領域に塗布される接着剤の塗布範囲を、前記位置決め部材及び／又は前記保持部の接着側の端面の外形よりも広くすることを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載の窓組立体の製造方法。

【請求項 5】

前記接着剤塗布工程において、前記窓板に前記接着剤を塗布する塗布ヘッドの位置を固定して前記窓板を移動させることを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれかに記載の窓組立体の製造方法。

【請求項 6】

所定の窓枠部に装着可能な窓板に、前記窓板と前記窓枠部との間の隙間を塞ぐために前記窓板の少なくとも一部の外周縁に沿って一体的に形成されたポリマー材料製の長尺な遮蔽部材と、前記窓板を前記窓枠部に対して位置決めするために前記窓板の外周縁の裏面で前記遮蔽部材から前記窓板の面中心側に離れて固着された位置決め部材とを設けた窓組立体を製造する方法であって、

前記窓板は、前記遮蔽部材の接着予定領域と、前記位置決め部材及びこれを保持する保持部の接着予定領域に、両方の接着予定領域の接着剤層が所定の接着剤連続領域を介して連続するように接着剤が連続的に塗布されたものを用い、

前記遮蔽部材を形成するためのキャビティと前記保持部を形成するためのキャビティとこれら両キャビティを前記接着剤連続領域以外の位置で連通するポリマー材料流動用キャビティとを有する射出成型型内に、前記接着剤が塗布された窓板と前記位置決め部材をセットして、所定のポリマー材料を射出して充填することで、前記遮蔽部材と前記保持部を前記ポリマー材料流動用キャビティによって形成される材料流動用連結部で連結した形状に成形して前記遮蔽部材と前記保持部を前記各接着剤層を介して前記窓板に接着固定する成形工程と、

前記成形工程後に前記材料流動用連結部を除去する工程とを含むことを特徴とする窓組立体の製造方法。

【請求項 7】

所定の窓枠部に装着可能な窓板に、前記窓板と前記窓枠部との間の隙間を塞ぐために前記窓板の少なくとも一部の外周縁に沿って一体的に形成されたポリマー材料製の長尺な遮蔽部材と、前記窓板を前記窓枠部に対して位置決めするために前記窓板の外周縁の裏面で前記遮蔽部材から前記窓板の面中心側に離れて固着された位置決め部材とを設けた窓組立体を製造する方法であって、

前記窓板は、前記遮蔽部材の接着予定領域と前記位置決め部材を保持する保持部の接着予定領域に、両方の接着予定領域の接着剤層が所定の接着剤連続領域を介して連続するように接着剤が連続的に塗布されたものを用い、

前記遮蔽部材を形成するためのキャビティと前記保持部を形成するためのキャビティとこれら両キャビティを前記接着剤連続領域以外の位置で連通するポリマー材料流動用キャビティとを有する射出成型型内に、前記接着剤が塗布された窓板をセットして、所定のポリマー材料を射出して充填することで、前記遮蔽部材と前記保持部を前記ポリマー材料流動用キャビティによって形成される材料流動用連結部で連結した形状に成形して前記遮蔽部材と前記保持部を前記各接着剤層を介して前記窓板に接着固定する成形工程と、

前記成形工程後に前記材料流動用連結部を除去する工程と

前記成形工程後に前記保持部に前記位置決め部材を装着する工程とを含むことを特徴とする窓組立体の製造方法。

【請求項 8】

所定の窓枠部に装着可能な窓板に、前記窓板と前記窓枠部との間の隙間を塞ぐために前記窓板の少なくとも一部の外周縁に沿って一体的に形成されたポリマー材料製の長尺な遮蔽部材と、前記窓板を前記窓枠部に対して位置決めするために前記窓板の外周縁の裏面で前記遮蔽部材から前記窓板の面中心側に離れて固着された位置決め部材とを設けた窓組立体を製造する方法であって、

前記窓板は、前記遮蔽部材の接着予定領域と前記位置決め部材の接着予定領域に、両方の接着予定領域の接着剤層が所定の接着剤連続領域を介して連続するように接着剤が連続的に塗布されたものを用い、

前記遮蔽部材を形成するためのキャビティと前記位置決め部材を形成するためのキャビティとこれら両キャビティを前記接着剤連続領域以外の位置で連通するポリマー材料流動用キャビティとを有する射出成型型内に、前記接着剤が塗布された窓板をセットして、所定のポリマー材料を射出して充填することで、前記遮蔽部材と前記位置決め部材を前記ポリマー材料流動用キャビティによって形成される材料流動用連結部で連結した形状に成形して前記遮蔽部材と前記位置決め部材を前記各接着剤層を介して前記窓板に接着固定する成形工程と、

前記成形工程後に前記材料流動用連結部を除去する工程とを含むことを特徴とする窓組立体の製造方法。

【請求項 9】

前記成形工程において、前記ポリマー材料流動用キャビティによって形成される材料流動用連結部に、前記窓板から離れる方向に突出するタブを一体に成形することを特徴とする請求項 1 乃至 8 のいずれかに記載の窓組立体の製造方法。

【請求項 10】

前記成形工程において、予め前記窓板のうちの少なくとも前記接着剤の塗布部分を加熱しておくことを特徴とする請求項 1 乃至 9 のいずれかに記載の窓組立体の製造方法。

【請求項 11】

所定の窓枠部に装着可能な窓板であって、

前記窓枠部との間の隙間を塞ぐために前記窓板の少なくとも一部の外周縁に沿って一体的に形成されるポリマー材料製の長尺な遮蔽部材が接着される予定の領域と、前記窓枠部に対して位置決めするために前記窓板の外周縁の裏面で前記遮蔽部材から前記窓板の面中心側に離れて固着される位置決め部材及び／又はこれを保持する保持部が接着される予定の領域に、これら両領域の接着剤層が所定の接着剤連続領域を介して連続するように接着剤が連続的に塗布されていることを特徴とする窓板。

【書類名】明細書

【発明の名称】窓組立体の製造方法及び窓板

【技術分野】

【0001】

本発明は、自動車等の窓枠部に装着される窓組立体の製造方法及びこの窓組立体の製造に用いる窓板に関するものである。

【背景技術】

【0002】

一般に、自動車の窓枠部に装着される窓組立体は、窓板の外周縁に沿って、窓板と窓枠部との間の隙間を塞ぐための長尺な遮蔽部材が設けられ、この窓板の外周縁の裏面と窓枠部との間に、ペースト状のシーラントを介在させて硬化させることで、窓組立体を窓枠部に接着固定すると共に、窓組立体と窓枠部との間をシールするようにしている。また、ペースト状のシーラントが完全に硬化するまでには通常で二昼夜（例えば48時間程度）を要するため、窓組立体を窓枠部に装着する際には、窓板の外周縁の裏面の所定箇所に設けた固定具を、窓枠部に形成した係合孔に係合させて、窓枠部に対して窓組立体を位置決めした状態で仮止めすることで、シーラントが硬化するまでの間に、窓組立体が位置ずれすることを防止するようにしている。

【0003】

このように、窓板に遮蔽部材と固定具を設けた窓組立体を製造する場合は、例えば、特許文献1（特許2554537号公報）に記載されているように、窓板のうちの遮蔽部材の接着予定領域と、固定具を保持する保持部の接着予定領域に、接着剤を非連続で分離して塗布し、その後、射出成形型内に、接着剤を塗布した窓板と固定具をセットして、遮蔽部材を成形するためのキャビティ内に射出された樹脂材料を、材料流動用キャビティを介して保持部を成形するためのキャビティへも流動させることで、遮蔽部材と保持部を材料流動用連結部で連結した形状に成形して遮蔽部材と保持部を窓板に接着固定した後、材料流動用連結部を除去するようにしたものがある。

【0004】

この方法では、窓板のうちの遮蔽部材の接着予定領域と保持部の接着予定領域に、接着剤を非連続で分離して塗布するため、遮蔽部材と保持部を窓板に接着固定しながら、遮蔽部材と保持部との間の材料流動用連結部が窓板に接着されることを回避して材料流動用連結部を簡単に除去することができるようになっている。

【特許文献1】特許2554537号公報（第2頁等）

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかし、上記特許文献1では、窓板のうちの遮蔽部材の接着予定領域と保持部の接着予定領域に、接着剤を非連続で分離して塗布するため、窓板に接着剤を塗布する作業を複数回に分けて行う必要があり、接着剤塗布作業が複雑化すると共に、両領域間で接着剤層の厚さや乾燥時間に差が生じ易く、接着強度がばらついてしまう可能性がある。

【0006】

例えば、スポンジやフェルト等の多孔質材で形成した塗布ヘッドに液状の接着剤を供給しながら、塗布ヘッドを窓板に接触させた状態でスライド移動させて、接着剤を塗布する方法の場合には、一方の接着予定領域に接着剤を塗布した後に、一旦、塗布ヘッドを窓板から離して次の接着予定領域まで移動させて、再び、塗布ヘッドを窓板に接触させる動作が必要となるため、接着剤塗布作業が複雑化する。しかも、塗布ヘッドを窓板から離して移動させる間に、塗布ヘッドに供給される接着剤が塗布ヘッドに溜まって、次の接着予定領域に多量の接着剤を塗布してしまう可能性があり、次の接着予定領域の接着剤層が厚くなり過ぎたり、接着剤層の乾燥時間が長くなり過ぎる（つまり、接着剤層が完全に乾燥しないうちに成形工程に移ってしまう）ため、接着強度が低下してしまう可能性がある。また、保持部の接着予定領域は、接着剤の塗布範囲が狭いため、塗布ヘッドをほとんどスラ

イド移動させることができず、塗布ヘッドを窓板に押しつけるだけになってしまい、接着剤を均一な厚さに塗布することが困難である。

【0007】

本発明はこれらの事情を考慮してなされたものであり、従って、本発明の目的は、窓組立体を製造する際の接着剤塗布作業を効率良く行うことができると共に、各接着予定領域に接着剤を均一に塗布することができて接着品質を向上させながら、遮蔽部材等の成形後に材料流動用連結部を簡単に除去できるようにすることにある。

【課題を解決するための手段】

【0008】

上記目的を達成するために、請求項1に記載の窓組立体の製造方法は、所定の窓枠部に装着可能な窓板に、窓板と前記窓枠部との間の隙間を塞ぐために前記窓板の少なくとも一部の外周縁に沿って一体的に形成されたポリマー材料製の長尺な遮蔽部材と、前記窓板を前記窓枠部に対して位置決めするために前記窓板の外周縁の裏面で前記遮蔽部材から前記窓板の面中心側に離れて固着された位置決め部材とを設けた窓組立体を製造する方法であって、前記窓板のうちの前記遮蔽部材の接着予定領域と、前記位置決め部材及びこれを保持する保持部の接着予定領域に、両方の接着予定領域の接着剤層が所定の接着剤連続領域を介して連続するように接着剤を連続的に塗布する接着剤塗布工程と、前記遮蔽部材を成形するためのキャビティと前記保持部を成形するためのキャビティとこれら両キャビティを前記接着剤連続領域以外の位置で連通するポリマー材料流動用キャビティとを有する射出成形型内に、前記接着剤が塗布された窓板と前記位置決め部材をセットして、所定のポリマー材料を射出して充填することで、前記遮蔽部材と前記保持部を前記ポリマー材料流動用キャビティによって形成される材料流動用連結部で連結した形状に成形して前記遮蔽部材と前記保持部を前記各接着剤層を介して前記窓板に接着固定する成形工程と、前記成形工程後に前記材料流動用連結部を除去する工程とを実行するようにしたものである。

【0009】

この方法では、窓板のうちの遮蔽部材の接着予定領域と、位置決め部材及び保持部の接着予定領域とに、接着剤連続領域を介して接着剤を連続的に塗布するので、窓板に接着剤を塗布する作業を複数回に分ける必要がなく、接着剤塗布作業を効率良く行うことができると共に、各接着予定領域に接着剤を均一に塗布することができ、各接着予定領域の接着剤層の厚さや乾燥時間をほぼ同程度にして安定した接着強度を得ることができる。しかも、遮蔽部材を成形するためのキャビティと保持部を成形するためのキャビティを接着剤連続領域以外の位置で連通するポリマー材料流動用キャビティを有する射出成形型を用いるので、遮蔽部材と保持部との間の材料流動用連結部が窓板に接着されることを回避して材料流動用連結部を簡単に除去することができる。

【0010】

ところで、成形型内に位置決め部材をセットした状態で遮蔽部材と保持部を成形する場合は、成形型のキャビティ形状や位置決め部材の形状に対する制約が多くなる。

【0011】

そこで、請求項2のように、所定のポリマー材料により遮蔽部材と保持部を成形した後、保持部に、予め別に作製しておいた位置決め部材を装着するようにしても良い。このようにすれば、成形時に成形型内に位置決め部材をセットする必要がなくなるため、成形型のキャビティ形状や位置決め部材の形状に対する制約が少なくなり、成形型の構成を簡素化できると共に、位置決め部材の設計の自由度も増大させることができる。

【0012】

また、請求項3のように、所定のポリマー材料により遮蔽部材と位置決め部材とを同時に射出成形するようにしても良い。このようにすれば、遮蔽部材を成形するポリマー材料で位置決め部材を成形することができ、部品点数を削減することができると共に、位置決め部材を取り付ける手間が不要となる。

【0013】

また、請求項4のように、接着剤塗布工程で、窓板のうちの位置決め部材や保持部の接

着予定領域に塗布される接着剤の塗布範囲を、位置決め部材や保持部の接着側の端面の外形よりも広くすることが好ましい。このようにすれば、接着剤層の塗布範囲に多少のばらつきが生じて、位置決め部材や保持部を窓板に確実に接着固定することができる。

【0014】

更に、請求項5のように、接着剤塗布工程で、窓板に接着剤を塗布する塗布ヘッドの位置を固定して窓板を移動させるようにしても良い。このようにすれば、塗布ヘッドを移動させて接着剤を塗布する場合に比べて、接着剤塗布装置の構成を簡略化して低コスト化することができると共に、接着剤塗布工程の終了後に、それまで窓板を移動させていたロボット等のシステムを引き続き使用して窓板をスムーズに次の工程（例えば、加熱・乾燥工程）へ搬送することができる。

【0015】

尚、請求項6～8に記載の発明は、それぞれ請求項1～請求項3の接着剤塗布工程を省略して、予め各接着予定領域に接着剤が連続的に塗布された窓板（例えば請求項11に記載の窓板）を入手して窓組立体を製造するようにしたものである。このようにしても、それぞれ請求項1～請求項3と同様の効果を得ることができる。

【0016】

また、請求項9のように、成形工程で、ポリマー材料流動用キャビティによって形成される材料流動用連結部に、窓板から離れる方向に突出するタブを一体に成形するようにしても良い。このようにすれば、材料流動用連結部を除去する際に、タブを摘んで引っ張ることで材料流動用連結部を窓板から離れる方向に引っ張ることができるので、材料流動用連結部の除去作業を容易化することができる。

【0017】

更に、請求項10のように、成形工程を行う際に、予め、窓板のうちの少なくとも接着剤の塗布部分を加熱しておくようにしても良い。このようにすれば、ポリマー材料の射出時に、窓板に塗布された接着剤の溶剤を安定して揮発させておくことができ、接着強度を安定化させることができる。

【発明の効果】

【0018】

以上の説明から明らかなように、本発明によれば、窓組立体を製造する際の接着剤塗布作業を簡易化して効率良く行うことができると共に、各接着予定領域に接着剤を均一に塗布して接着剤層の厚さや乾燥時間をほぼ同程度にすることができて接着品質を向上させながら、遮蔽部材等の成形後に材料流動用連結部を簡単に除去することができるという優れた効果が得られる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0019】

以下、本発明を自動車のリヤウインドウ用の窓組立体に適用した4つの実施例1～4を説明する。

【実施例1】

【0020】

本発明の実施例1を図1乃至図7に基づいて説明する。まず、図1乃至図3に基づいてリヤウインドウ用の窓組立体11の概略構成を説明する。窓組立体11の窓板12（リヤウインドウガラス）は、該窓板12が装着される窓枠部13（図2参照）に対応した形状（例えば緩やかに湾曲した略長方形）に形成されている。この窓板12の裏面には、不透明着色層14（窓板が硝子のときフリット層ともいう）が窓板12の外周縁に沿って所定幅で形成され、この不透明着色層14によって、窓板12の表側から窓板12の外周縁の裏側が透けて見えなくなっている。

【0021】

また、図2に示すように、窓板12の裏面には、長尺な遮蔽部材15が窓板12の外周縁（不透明着色層14の外周縁）に沿って設けられている。この遮蔽部材15は、所定のポリマー材料の射出成形により成形されて窓板12の裏面の不透明着色層14に後述する

第1の接着剤層31により接着固定されている。この遮蔽部材15の基部に一体成形された弾性変形可能なリップ部16が、窓枠部13の周壁部17に当接することで、窓板12と窓枠部13との間の隙間を塞ぐようになっている。

【0022】

更に、図3に示すように、窓板12の裏面の複数箇所には、窓板12を窓枠部13に対して位置決めした状態で仮止めするための位置決め固定具18（位置決め部材）が設けられている。この位置決め固定具18は、窓板13の裏面のうちの不透明着色層14の範囲内で遮蔽部材15から窓板12の面中心側に離れた位置に配置され、該位置決め固定具18の基端部に形成された円盤状の台座部19が保持部20に取り囲まれて保持されている。この保持部20は、遮蔽部材15と同じポリマー材料の射出成形により成形されて窓板12の裏面に後述する第2の接着剤層32により接着固定されている。位置決め固定具18は、POM樹脂のような弾性材料で成形され、その先端部には、弾性変形可能な係合部21が一体成形され、窓組立体11を窓枠部13に装着する際に、位置決め固定具18の係合部21を、窓枠部13のフランジ部22に形成された係合孔23に弾性係合させることで、後述するシーラント47が硬化するまでの間、窓組立体11を窓枠部13に対して位置決めした状態で仮止めできるようにになっている。

【0023】

次に、図4乃至図7に基づいて上記構成の窓組立体11の製造方法を説明する。まず、予め別の場所で不透明着色層14が形成された窓板12を準備し、接着剤塗布工程に進む。この接着剤塗布工程で用いる接着剤塗布装置24は、図4に示すように、接着剤タンク25内に貯溜した液状の接着剤をポンプ26により供給パイプ27を介して塗布ヘッド28に供給する。この塗布ヘッド28の接着剤塗布部29を、図示しないスプリング等で窓板面側に向けて軽く付勢した状態で窓板12の裏面に接触させた位置で固定して、窓板12を水平方向にスライド移動させることで、窓板12の裏面に接着剤を塗布するようになっている。塗布ヘッド28の接着剤塗布部29は、図4に示すように、ブラシ状部材や面状ファスナーのような類似材で形成しても良いし、或は、スポンジやフェルト等の多孔質材で形成するようにしても良い。

【0024】

この接着剤塗布工程では、図5に示すように、窓板12の裏面のうちの遮蔽部材15の接着予定領域（以下「第1の接着予定領域」という）S1に、接着剤を塗布して第1の接着剤層31を形成し、位置決め固定具18及び保持部20の接着予定領域（以下「第2の接着予定領域」という）S2に、接着剤を塗布して第2の接着剤層32を形成する。その際、両方の接着予定領域S1、S2の接着剤層31、32が、所定の接着剤連続領域S3を介して連続するように接着剤を連続的に塗布する。

【0025】

この場合、例えば、図示しない多関節型ロボットのハンドに窓板12を保持させて、次のようにして窓板12の裏面に接着剤を連続的に塗布する。

【0026】

まず、図5に実線(i)で示すように、塗布ヘッド28が第1の接着予定領域S1に沿って相対的にスライド移動するように窓板12を移動させて、第1の接着予定領域S1に接着剤を塗布していく。

【0027】

そして、塗布ヘッド28が第2の接着予定領域S2に近づく毎に、図5に破線(ii)で示すように、塗布ヘッド28が第1の接着予定領域S1→接着剤連続領域S3→第2の接着予定領域S2→接着剤連続領域S3→第1の接着予定領域S1の経路で相対的に移動するように窓板12をスライド移動させて、第2の接着予定領域S2に接着剤を塗布する。その際、第2の接着予定領域S2に塗布される接着剤の塗布範囲を、位置決め固定具18の台座部19及び保持部20の接着側の端面の外形よりも広くする。尚、第1の接着予定領域S1に塗布される接着剤の塗布範囲についても、同様に、遮蔽部材15の幅よりも内側にやや広くすることが好ましい。

【0028】

その後、再び、図5に実線(iii)で示すように、塗布ヘッド28が第1の接着予定領域S1に沿って相対的に移動するように窓板12を移動させて、第1の接着予定領域S1に接着剤を塗布していく。上述した窓板12の移動は、ロボットのハンドを予め定めたプログラムにより駆動制御することで行うことができる。

【0029】

接着剤塗布工程の終了後、乾燥工程に進む。この乾燥工程では、接着剤が塗布された窓板12を乾燥炉等に入れて好ましくは窓板12全体を加熱する。これにより、窓板12の接着剤の塗布部分を加熱して、接着剤に含まれる溶剤の揮発を促進させる。尚、接着剤層の厚さは、理解を容易にするために、厚さ方向に拡大して図示されている。

【0030】

この乾燥工程の終了後、成形工程に進む。この成形工程で用いる射出成型型35は、図6に示すように、遮蔽部材15を成形するための遮蔽部材成形用キャビティ36と、位置決め固定具18の台座部19を保持する保持部20を成形するための保持部成形用キャビティ37と、これら両キャビティ36、37を窓板12の接着剤連続領域S3以外の一部の位置（接着剤が塗布されていない位置）で連通するポリマー材料流動用キャビティ38とが設けられ、遮蔽部材成形用キャビティ36の1箇所又はキャビティ36の長手方向に沿って複数箇所に射出ゲート39が設けられている。

【0031】

これにより、射出成型機の射出ノズル（図示せず）から射出された溶融ポリマー材料が、射出成型型35のランナー40→スプルー41→射出ゲート39の経路で遮蔽部材成形用キャビティ36内に射出され、この遮蔽部材成形用キャビティ36内に射出して充填されたポリマー材料が、ポリマー材料流動用キャビティ38を介して保持部成形用キャビティ37へも流動して充填されるようになっている。

【0032】

また、ポリマー材料流動用キャビティ38には、該ポリマー材料流動用キャビティ38によって形成される材料流動用連結部42（図7参照）に、窓板12から離れる方向に突出するタブ43（図7参照）を一体成形するためのタブ成形用キャビティ44が設けられている。

【0033】

この成形工程では、図6に示すように、まず、射出成型型35内に、接着剤が塗布された窓板12と位置決め固定具18をセットして、射出成型型35を閉じる。この後、射出成型型35内に、溶融ポリマー材料を射出して各キャビティ36～38、44に充填した後、ポリマー材料を冷却固化又は硬化させることで、図7に示すように、遮蔽部材15と保持部20をポリマー材料流動用キャビティ38によって形成される材料流動用連結部42で連結した形状に成形すると共に、遮蔽部材15と保持部20を、それぞれ接着剤層31、32を介して窓板12の裏面の不透明着色層14に接着固定する。これにより、遮蔽部材15と保持部20が材料流動用連結部42で連結した状態で接着固定された窓組立体11を製造する。また、材料流動用連結部42には、窓板12から離れる方向に突出するタブ43が一体成形される。この後、射出成型型35を開いて、遮蔽部材15と保持部20が連結状態で接着固定された窓組立体11を、突き出しピン45で突き出して射出成型型35から取り外す。

【0034】

この成形工程で、遮蔽部材15と保持部20を成形するポリマー材料としては、例えば、ABS（アクリルニトリル／ブタジエン／スチレン）、PVC（ポリ塩化ビニル）、PP（ポリプロピレン）等の汎用熱可塑性樹脂を用いると良い。その他、PA（ポリアミド）、PC（ポリカーボネート）、PPE（ポリフェニレンエーテル）等のエンジニアリング熱可塑性樹脂、TPO（オレフィン系熱可塑性エラストマー）、SBC（スチレン系熱可塑性エラストマー）、TPVC（塩化ビニル系熱可塑性エラストマー）、TPU（ウレタン系熱可塑性エラストマー）等の熱可塑性エラストマー、反応してPU（ポリウレタン

)を生成するポリオールとイソシアネートの液状反応性混合材料を用いても良い。また、窓組立体11の使用環境を考慮してポリマー材料中に充填材、改質剤等を混入するようにしても良い。

【0035】

成形工程の終了後、遮蔽部材15と保持部20が連結状態で接着固定された窓組立体11から材料流動用連結部42を除去する工程に進む。この工程では、材料流動用連結部42に一体成形されたタブ44を摘んで引っ張ることで、材料流動用連結部42を窓板12から離れる方向に引っ張って除去する。これにより、除去された部分に、不透明着色層14が露出する。材料流動用連結部42を除去する際、材料流動用連結部42と遮蔽部材15との分離予定部及び材料流動用連結部42と保持部20との分離予定部にナイフ等で切れ目を入れておくようにしても良い。また、材料流動用連結部42と遮蔽部材15との分離予定部及び材料流動用連結部42と保持部20との分離予定部をナイフ等で切断するようにしても良い。これにより、窓組立体11の製造が完了する。

【0036】

尚、材料流動用連結部42を除去する理由は、材料流動用連結部42を残したままその上から後述するペースト状のウレタン系シーラント47を紐状に吐出すると、シーラント47が材料流動用連結部42の凹隅部まで行き渡らないで小さな間隙が生じて、この間隙を伝って水が浸入する危険性があるためである。

【0037】

以上のようにして製造した窓組立体11を窓枠部13に取り付ける場合には、図2及び図3に示すように、窓板12の裏面のうちの不透明着色層14の範囲内で遮蔽部材15から窓板12の面中心側に離れた位置に、シーラント塞止め用のダム46を接着等により固着して、窓板12の裏面のうちの遮蔽部材15の内周側でダム46の外周側にペースト状のウレタン系シーラント47を外周縁に沿って吐出する。このとき、位置決め固定具18の位置では、シーラント47を位置決め固定具18と遮蔽部材15との間の不透明着色層14上に吐出する。この後、窓組立体11を窓枠部13に嵌めて、窓板12の全外周縁の裏面と窓枠部13のフランジ部22との間に、ペースト状のシーラント47を介在させた状態で、シーラント47を硬化させることで、窓組立体11を窓枠部13に接着固定すると共に、窓組立体11と窓枠部13との間の隙間をシールする。その際、窓板12の裏面に固定された各位置決め固定具18の係合部21を、それぞれ窓枠部13のフランジ部22の係合孔23に弾性係合させて、窓組立体11を窓枠部13に対して窓板12の面と平行方向及び厚さ方向の両方に位置決めした状態で仮止めすることで、シーラント47が硬化するまでの間に、窓組立体11が位置ずれすることを防止する。

【0038】

以上説明した本実施例1では、窓組立体11を製造する際の接着剤塗布工程で、窓板12のうちの第1の接着予定領域S1（遮蔽部材15の接着予定領域）と、第2の接着予定領域S2（位置決め固定具18及び保持部20の接着予定領域）に、両方の接着予定領域S1、S2の接着剤層31、32が、接着剤連続領域S3を介して連続するように接着剤を連続的に塗布するようにしたので、窓板12に接着剤を塗布する作業を複数回に分ける必要がなく、接着剤塗布作業を簡易化して効率良く行うことができると共に、各接着予定領域S1、S2に接着剤を均一に塗布することができ、各接着予定領域S1、S2の接着剤層31、32の厚さや乾燥時間をほぼ同程度にして安定した接着強度を得ることができ。しかも、遮蔽部材成形用キャビティ36と保持部成形用キャビティ37を接着剤連続領域S3以外の位置で連通するポリマー材料流動用キャビティ38を有する射出成型型35を用いるので、遮蔽部材15と保持部20との間の材料流動用連結部42が窓板12に接着されることを回避して材料流動用連結部42を簡単に除去することができる。

【0039】

また、本実施例1では、接着剤塗布工程において、窓板12のうちの第2の接着予定領域S2（位置決め固定具18及び保持部20の接着予定領域）に塗布される接着剤の塗布範囲を、位置決め固定具18の台座部19及び保持部20の接着側の端面の外形よりも広

くするようにしたので、保持部 20 の端面全体を接着剤層に確実に密着させることができ、保持部 20 を窓板 12 に確実に接着固定することができる。

【0040】

更に、本実施例 1 では、接着剤塗布工程で、窓板 12 に接着剤を塗布する塗布ヘッド 28 の位置を固定して窓板 12 を移動させるようにしたので、塗布ヘッド 28 を移動させて接着剤を塗布する場合に比べて、接着剤塗布装置 24 の構成を簡略化して低コスト化することができると共に、接着剤塗布工程の終了後に、それまで窓板 12 を移動させていたロボット等のシステムを引き続き使用して窓板 12 をスムーズに次の加熱・乾燥工程へ搬送することができる。

【0041】

また、本実施例 1 では、成形工程で、材料流動用連結部 42 に、窓板 12 から離れる方向に突出するタブ 43 を一体成形するようにしたので、材料流動用連結部 42 を除去する際に、タブ 43 を摘んで引っ張ることで材料流動用連結部 42 を窓板 12 から離れる方向に引っ張ることができ、材料流動用連結部 42 の除去作業を容易化して能率良く行うことができる。

【0042】

更に、本実施例 1 では、成形工程を行う前の乾燥工程で、予め、窓板 12 の接着剤の塗布部分を加熱しておくようにしたので、ポリマー材料の射出成形時には、窓板 12 に塗布された接着剤の溶剤を安定して揮発させておくことができ、接着強度を安定化させることができる。

【実施例 2】

【0043】

次に、図 8 を用いて本発明の実施例 2 を説明する。但し、前記実施例 1 と実質的に同一部分には同一符号を付して説明を簡略化し、主として前記実施例 1 と異なる部分について説明する。

【0044】

前記実施例 1 では、射出成型型 35 内に位置決め固定具 18 をセットした状態で遮蔽部材 15 と保持部 20 を成形するようにしたが、本実施例 2 では、ポリマー材料により遮蔽部材 15 と保持部 20 を成形した後、予め別に作製しておいた位置決め固定具 18 を保持部 20 に装着するようにしている。

【0045】

図 8 に示すように、本実施例 2 において、成形工程で用いる射出成型型 48 は、位置決め固定具 18 をセットする空間が省略されている。そして、成形工程では、射出成型型 48 内に、前記実施例 1 と同じ方法で接着剤が塗布された窓板 12 のみをセットして、ポリマー材料を射出して充填することで、遮蔽部材 15 と保持部 20 を材料流動用連結部 42 で連結した形状に成形して、遮蔽部材 15 と保持部 20 を各接着剤層 31、32 を介して窓板 12 の裏面の不透明着色層 14 に接着固定する。

【0046】

この成形工程の終了後、材料流動用連結部 42 を除去し、その後、予め別に作製しておいた位置決め固定具 18 を保持部 20 に装着する。或は、予め別に作製しておいた位置決め固定具 18 を保持部 20 に装着し、その後、材料流動用連結部 42 を除去するようにしても良い。

【0047】

本実施例 2 では、ポリマー材料により遮蔽部材 15 と保持部 20 を成形した後、保持部 20 に位置決め固定具 18 を装着するようにしたので、成形時に成型型 48 内に位置決め固定具 18 をセットする必要がなくなると共に、成型型 48 のキャビティ形状や位置決め固定具 18 の形状に対する制約が少なくなり、成型型 48 の構成を簡素化できると共に、位置決め固定具 18 の設計の自由度も増大させることができ、複雑な形状の位置決め固定具 18 でも使用可能であるという利点がある。

【実施例 3】

【0048】

次に、図9及び図10を用いて本発明の実施例3を説明する。但し、前記実施例1及び2と実質的に同一部分には同一符号を付して説明を簡略化し、主として前記実施例1及び2と異なる部分について説明する。

【0049】

前記実施例2では、位置決め固定具18を保持する保持部20の部分のみを、遮蔽部材15と同じポリマー材料の射出成形により成形するようにしたが、本実施例3では、図9に示すように、窓組立体49は、窓板12を窓枠部13に対して位置決めするための位置決め部材50全体を、遮蔽部材15と同じポリマー材料の射出成形により同時成形して窓板12の裏面の不透明着色層14に接着固定するようにしている。この位置決め部材50は、台座部51と、先端側がテーパ面となる小径の突起部50aとが同軸状に一体成形され、窓組立体49を窓枠部13に装着する際に、位置決め部材50の突起部50aを窓枠部13のフランジ部22の係合孔23に挿入して台座部51の端面51aをフランジ部22に当接させることで、フランジ部22と窓板12との間隔を一定に保った状態で、窓組立体49を窓枠部13に対して窓板12の面と平行方向で位置決めできるようになっている。

【0050】

上記構成の窓組立体49を製造する場合、接着剤塗布工程では、前記実施例1と同じ方法で、窓板12の裏面のうちの遮蔽部材15の接着予定領域と位置決め部材50の接着予定領域に、両方の接着予定領域の接着剤層31、52が接着剤連続領域を介して連続するように接着剤を連続的に塗布する。

【0051】

また、成形工程で用いる射出成形型53は、図10に示すように、遮蔽部材成形用キャビティ36と、位置決め部材50を成形するための位置決め部材成形用キャビティ54と、これら両キャビティ36、54を窓板12の接着剤連続領域以外の位置で連通するポリマー材料流動用キャビティ38とが設けられている。

【0052】

そして、成形工程では、射出成形型53内に、接着剤が塗布された窓板12のみをセットして、ポリマー材料を射出して充填することで、遮蔽部材15と位置決め部材50を材料流動用連結部42で連結した形状に成形して、遮蔽部材15と位置決め部材50を各接着剤層31、52を介して窓板12の裏面の不透明着色層14に接着固定する。この成形工程後、材料流動用連結部42を除去する。

【0053】

このようにして製造した窓組立体49を窓枠部13に装着する際には、図9に示すように、窓板12の裏面に固定された各位置決め部材50の突起部50aを、それぞれ窓枠部13のフランジ部22の係合孔23に挿入して台座部51の端面51aをフランジ部22に当接させて、フランジ部22と窓板12との間隔を一定に保った状態で窓組立体11を窓枠部13に対して位置決めすることで、シーラント47が硬化するまでの間に、窓組立体49が位置ずれすることを防止する。

【0054】

以上説明した本実施例3では、ポリマー材料により遮蔽部材15と位置決め部材50とを同時に射出成形するようにしたので、遮蔽部材15を成形するポリマー材料で位置決め部材50を成形することができ、部品点数を削減することができると共に、位置決め部材50を取り付ける手間が不要となり、窓組立体49の製造コストを安くすることができるという利点がある。

【実施例4】

【0055】

次に、本発明を自動車のクォーターウィンドウ用の窓組立体に適用した実施例4を図11及び図12に基づいて説明する。但し、前記実施例1と実質的に同一部分には同一符号を付して説明を簡略化し、主として前記実施例1と異なる点について説明する。

【0056】

図11及び図12に示すように、クォーターウインドウ用の窓組立体55の窓板56（クォーターウインドウガラス）には、長尺な遮蔽部材57が窓板56の外周縁のうちの前側辺56aを除いた部分に沿って設けられている。この遮蔽部材57は、窓板12の外周縁部の表面から裏面にかけて形成され、窓板56の外周縁部の表裏両面及び端面に渡って塗布された接着剤層58を介して接着固定され、窓枠部59との間の隙間を塞ぐリップ部60と、窓板56の表面の外周縁を覆う装飾部61が一体成形されている。

【0057】

この窓組立体54を製造する場合、接着剤塗布工程では、窓板56のうちの遮蔽部材57の接着予定領域と、位置決め固定具18及び保持部20の接着予定領域に、両方の接着予定領域の接着剤層58、32が接着剤連続領域を介して連続するように接着剤を連続的に塗布する。

【0058】

また、成形工程では、射出成形型（図示せず）内に、接着剤が塗布された窓板12と位置決め固定具18をセットして、ポリマー材料を射出して充填することで、遮蔽部材57と保持部20を材料流動用連結部42で連結した形状に成形して、遮蔽部材57と保持部20を各接着剤層58、32を介して窓板56に接着固定する。この成形工程後、材料流動用連結部42を除去する。

【0059】

尚、前記実施例2と同じように、ポリマー材料により遮蔽部材57と保持部20を成形した後に、保持部20に位置決め固定具18を装着するようにしても良い。

或は、前記実施例3と同じように、位置決め部材50全体を、遮蔽部材57と同じポリマー材料の射出成形により成形して窓板56の裏面に接着固定するようにしても良い。

【0060】

以上説明した上記各実施例1～4では、接着剤塗布工程で、塗布ヘッド28の位置を固定して窓板12（56）を移動させるようにしたが、窓板12（56）の位置を固定して塗布ヘッド28を移動させるようにしても良い。

【0061】

尚、本発明は、上記各実施例1～4において、接着剤塗布工程を省略して、予め各接着予定領域に接着剤が連続的に塗布された窓板を入手して窓組立体を製造するようにしても良い。

【0062】

また、上記各実施例1～4では、予め別の場所で不透明着色層14が形成された窓板12を仕入れるようにしたが、接着剤塗布工程の前に、窓板12に不透明着色層14を形成する工程を追加しても良い。

【0063】

また、本発明は、接着剤連続領域や材料流動用連結部の位置や形状を適宜変更しても良く、要は、接着剤連続領域以外の位置で材料流動用連結部を形成すれば良い。

また、窓組立体と窓枠部との間の水密性や気密性を厳しく要求されない場合には、シーラントに代えて、粘着性を有するスポンジ状のシール材を用いるようにしても良い。

【0064】

また、本発明は、自動車のリヤウインドウ用の窓組立体やクォーターウインドウ用の窓組立体に限定されず、フロントウインドウ用の窓組立体やサイドウインドウ用の窓組立体等に適用しても良い。更に、本発明は、自動車用の窓組立体に限定されず、自動車以外の車両用の窓組立体、建物用の窓組立体、工作物用の窓組立体等に広く適用して実施できる。

【図面の簡単な説明】**【0065】**

【図1】本発明の実施例1における窓組立体の要部の正面図である。

【図2】図1のA-A断面図である。

【図 3】 図 1 の B-B 断面図である。

【図 4】 接着剤塗布装置の概略構成を示す斜視図である。

【図 5】 接着剤の塗布方法を説明するための窓板の要部の裏面図である。

【図 6】 実施例 1 の射出成型型の要部の断面図である。

【図 7】 遮蔽部材と保持部が材料流動用連結部で連結した状態を示す窓組立体の要部の裏面図である。

【図 8】 実施例 2 の射出成型型の要部の断面図である。

【図 9】 実施例 3 の窓組立体の要部の断面図である。

【図 10】 実施例 3 の射出成型型の要部の断面図である。

【図 11】 実施例 4 の窓組立体の正面図である。

【図 12】 図 11 の C-C 断面図である。

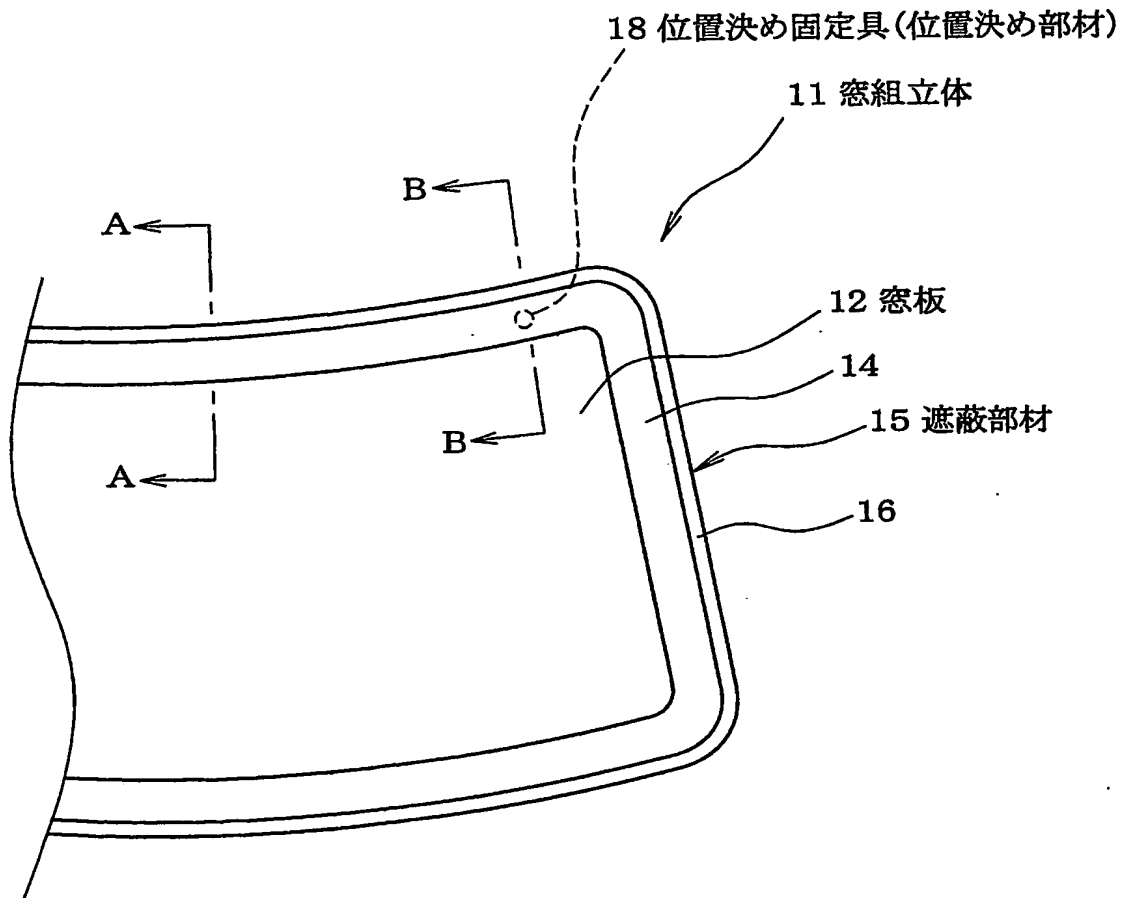
【符号の説明】

【0066】

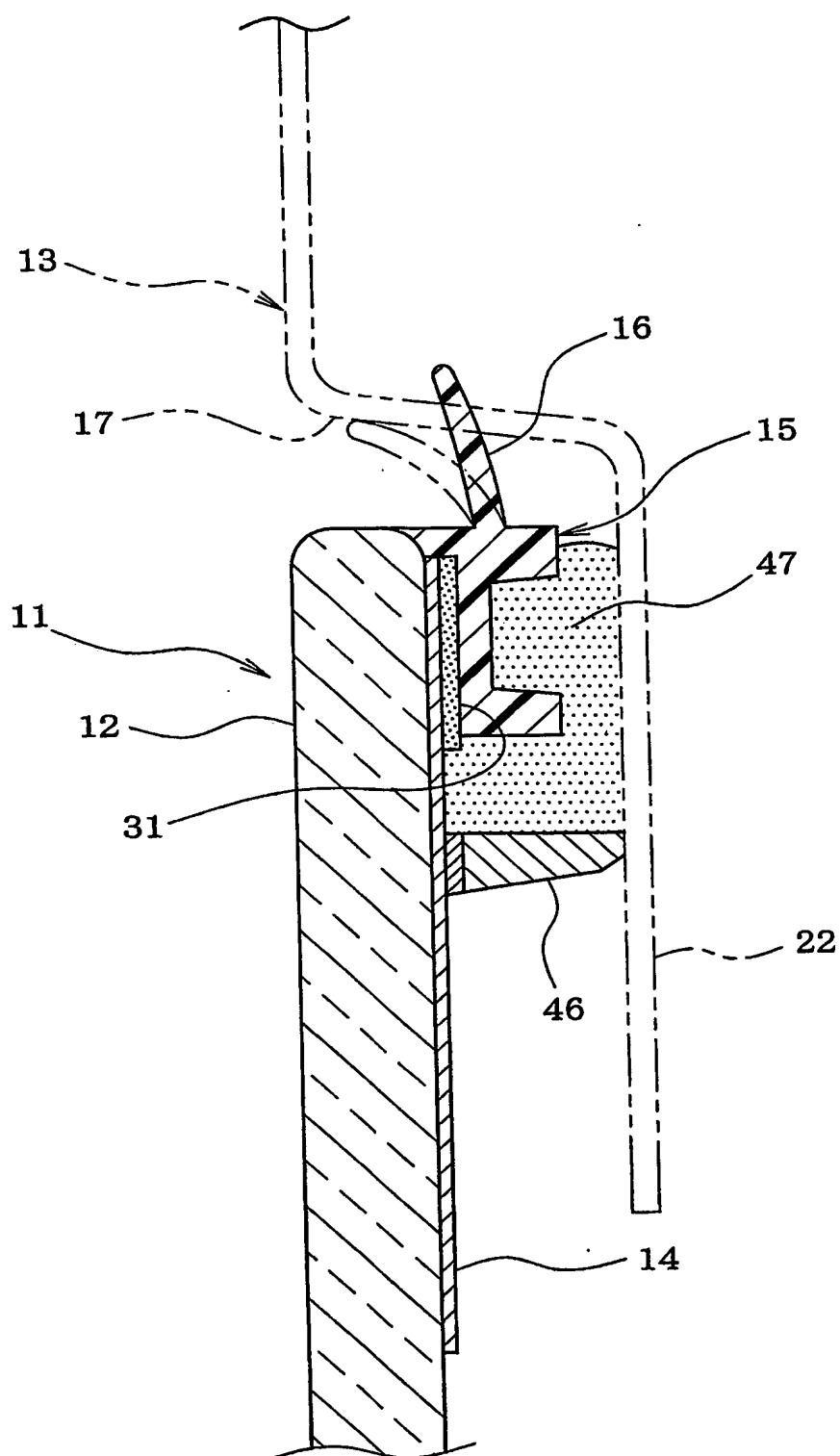
11…窓組立体、12…窓板、13…窓枠部、14…不透明着色層、15…遮蔽部材、18…位置決め固定具（位置決め部材）、19…台座部、20…保持部、21…係合部、23…係合孔、24…接着剤塗布装置、28…塗布ヘッド、29…接着剤塗布部、31…第 1 の接着剤層、32…第 2 の接着剤層、35…射出成型型、36…遮蔽部材成形用キャビティ、37…保持部成形用キャビティ、38…ポリマー材料流動用キャビティ、42…材料流動用連結部、43…タブ、44…タブ成形用キャビティ、47…シーラント、48…射出成型型、49…窓組立体、50…位置決め部材、53…射出成型型、54…位置決め部材成形用キャビティ、55…窓組立体、56…窓板、57…遮蔽部材、59…窓枠部

【書類名】 図面

【図 1】

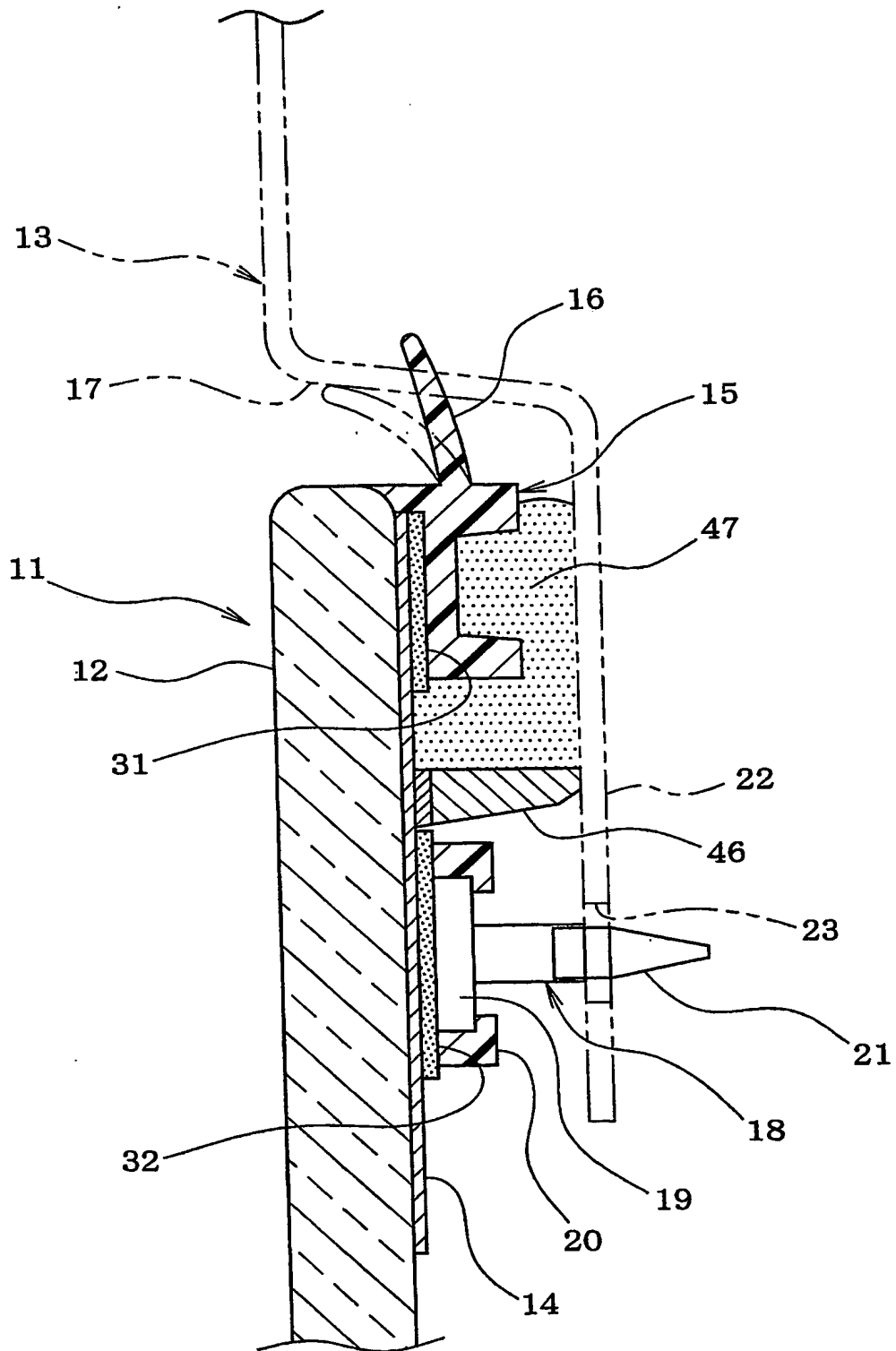


【図 2】



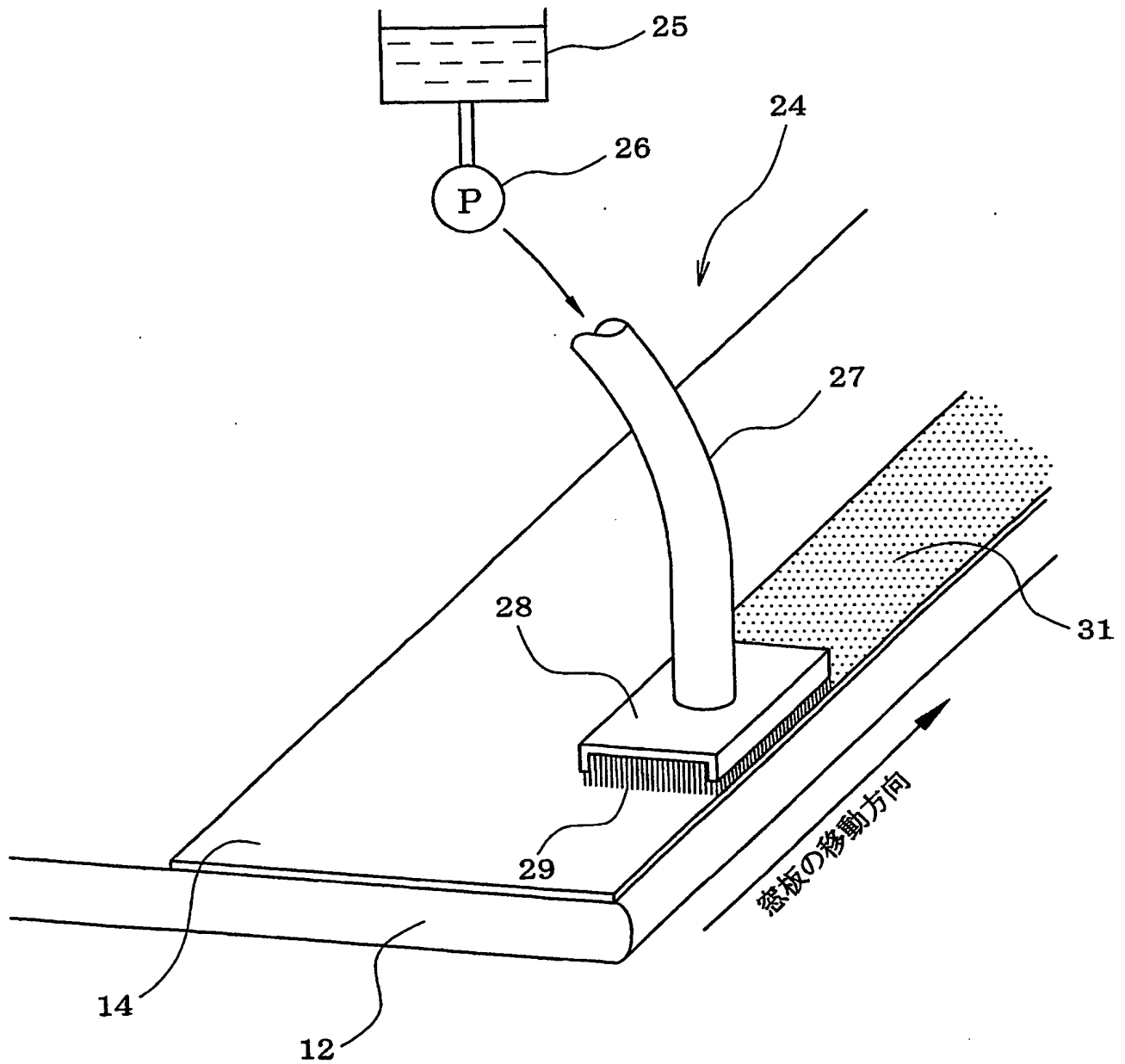
A-A断面図

【図 3】

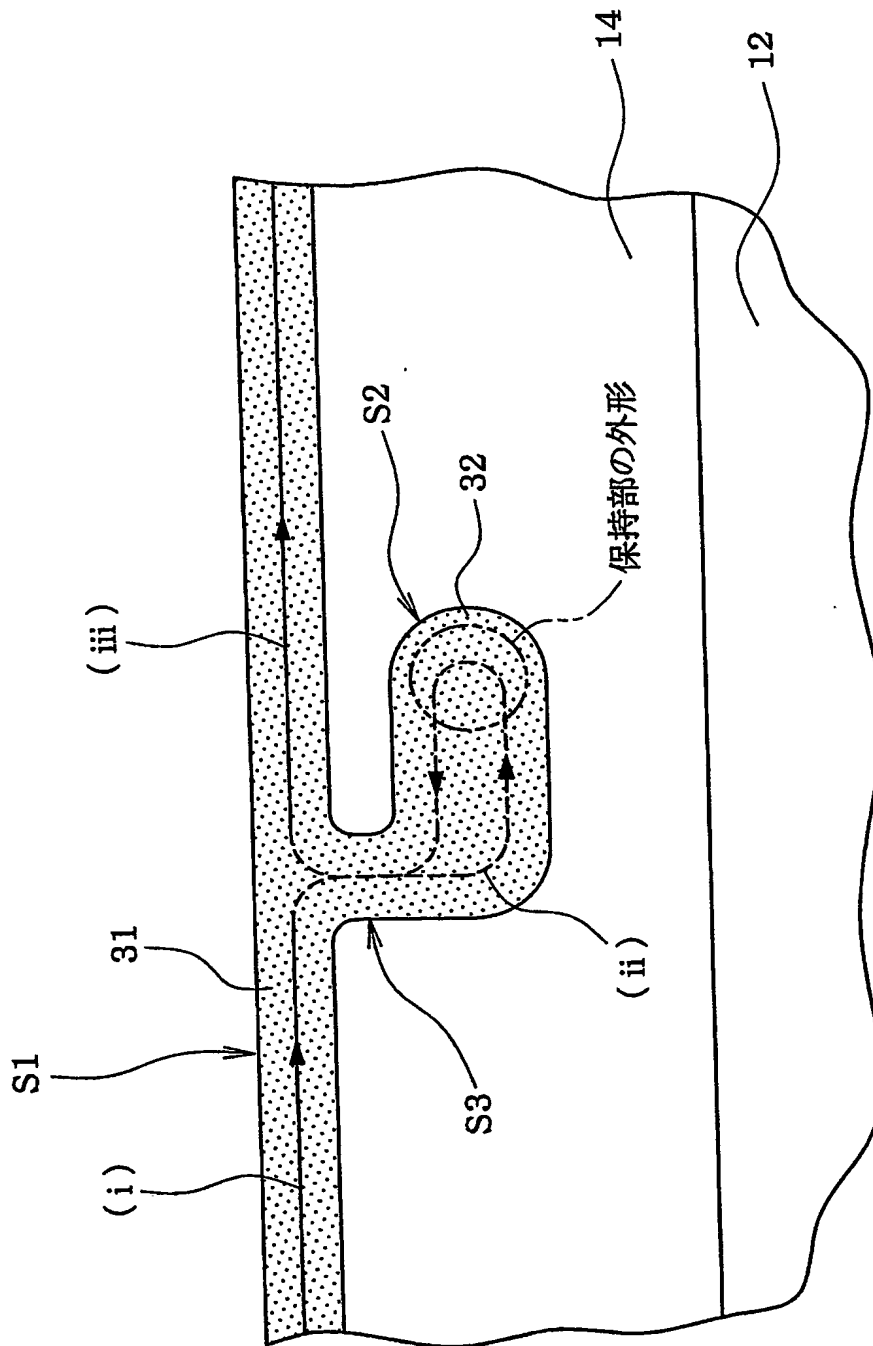


B-B断面図

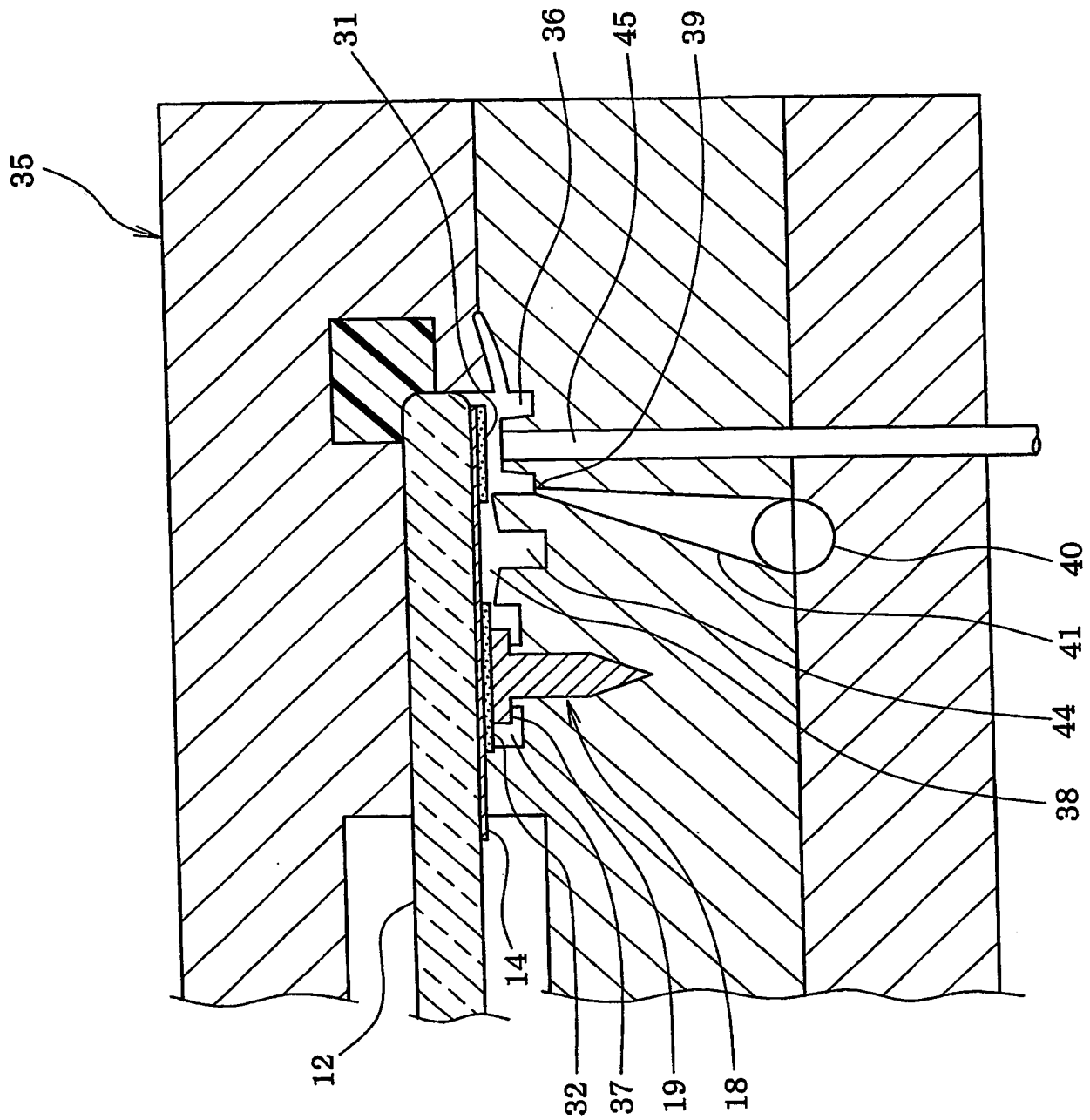
【図 4】



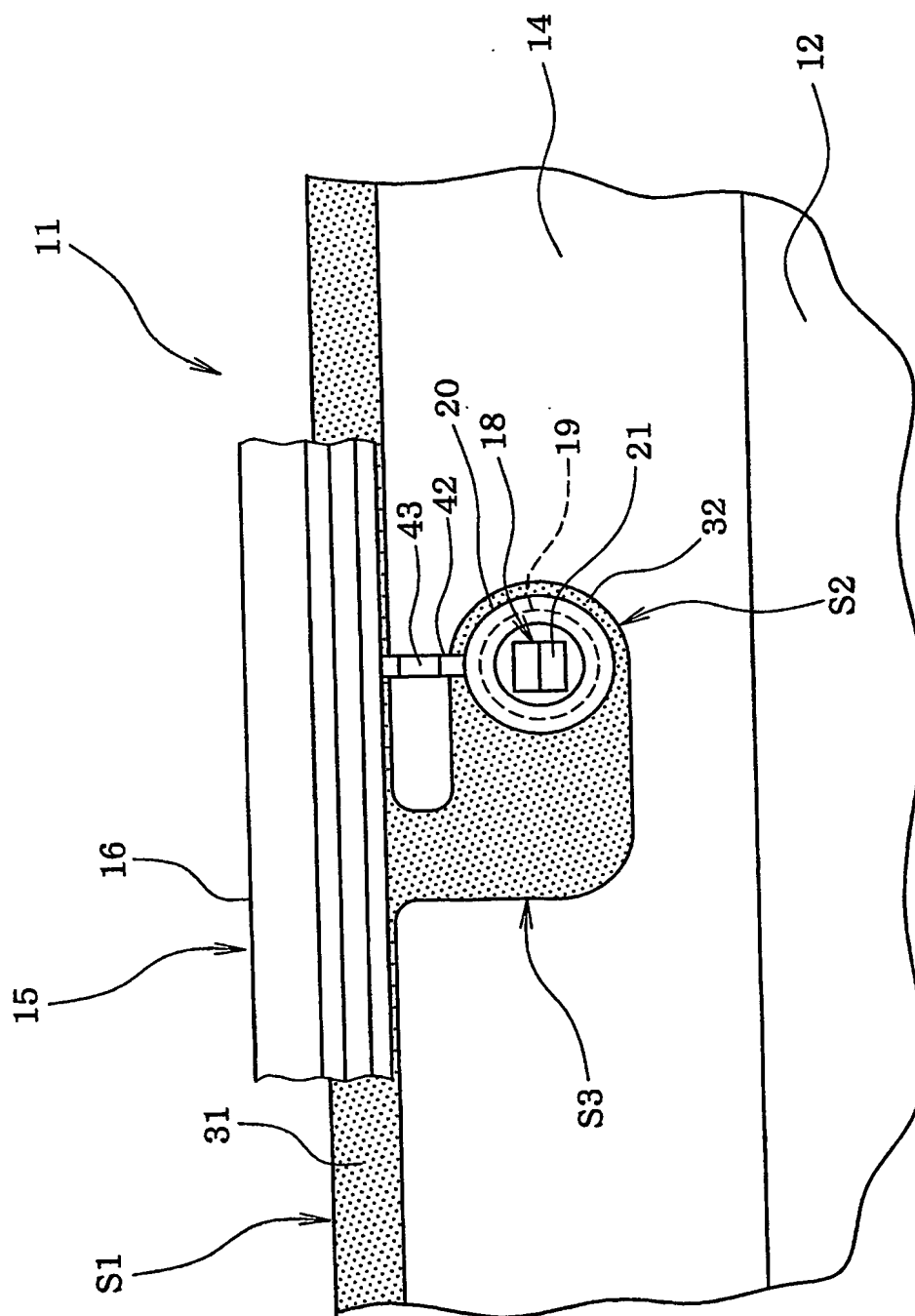
【図 5】



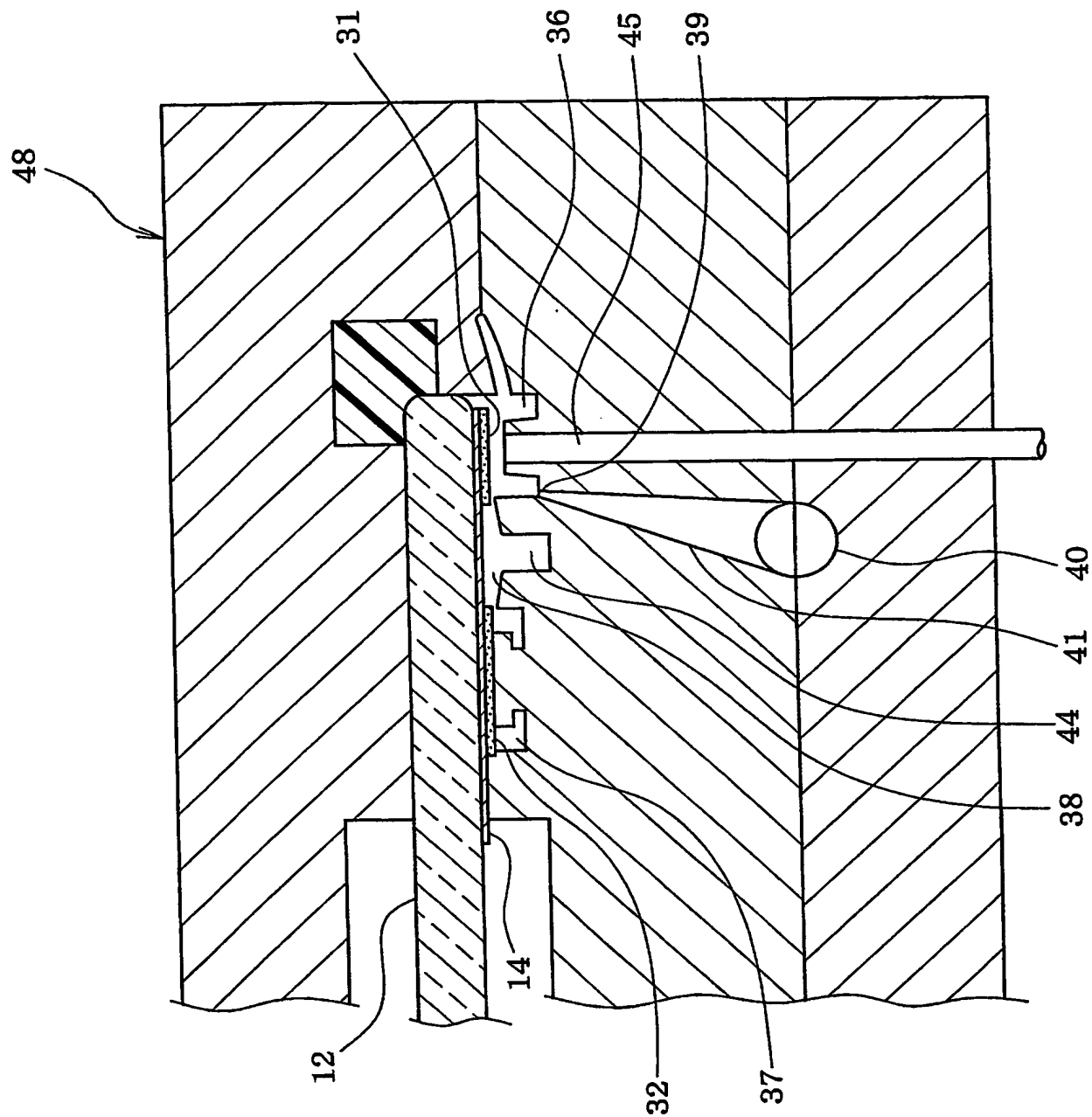
【図 6】



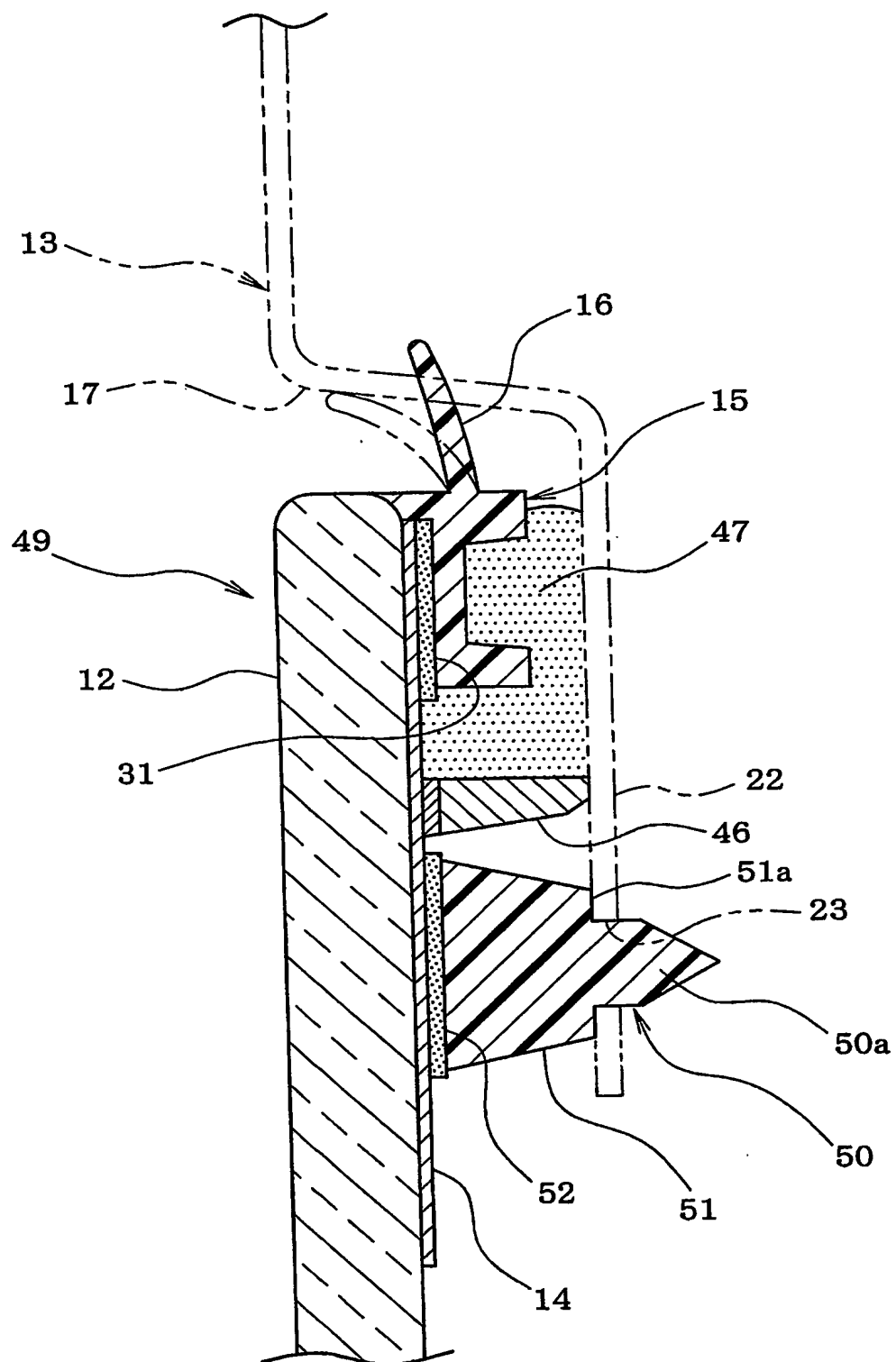
【図 7】



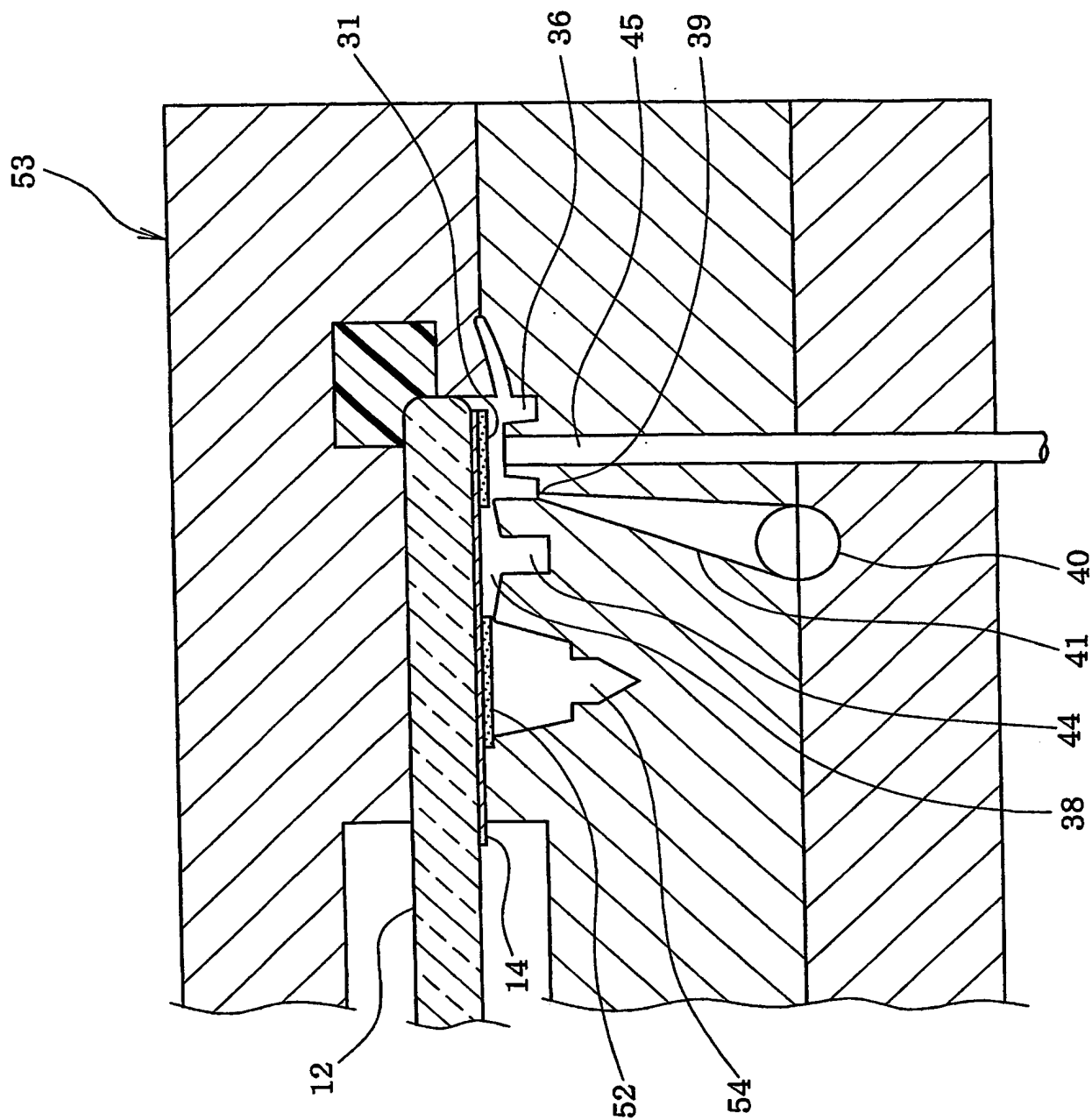
【図 8】



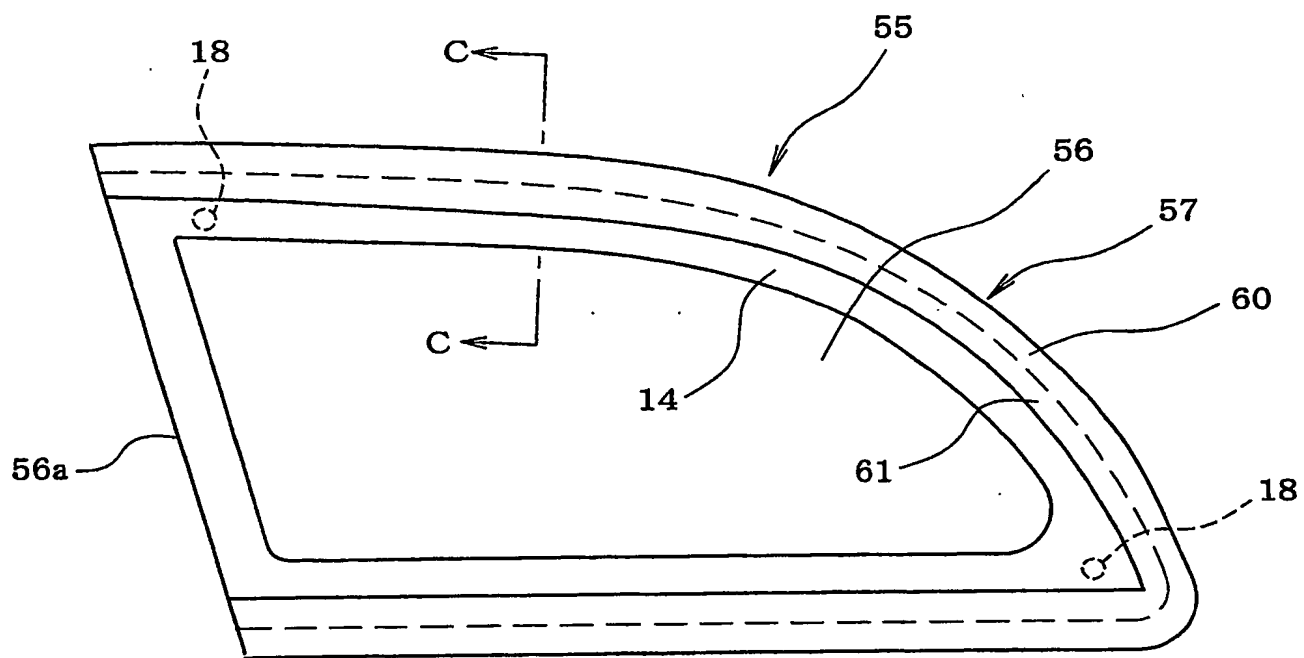
【図 9】



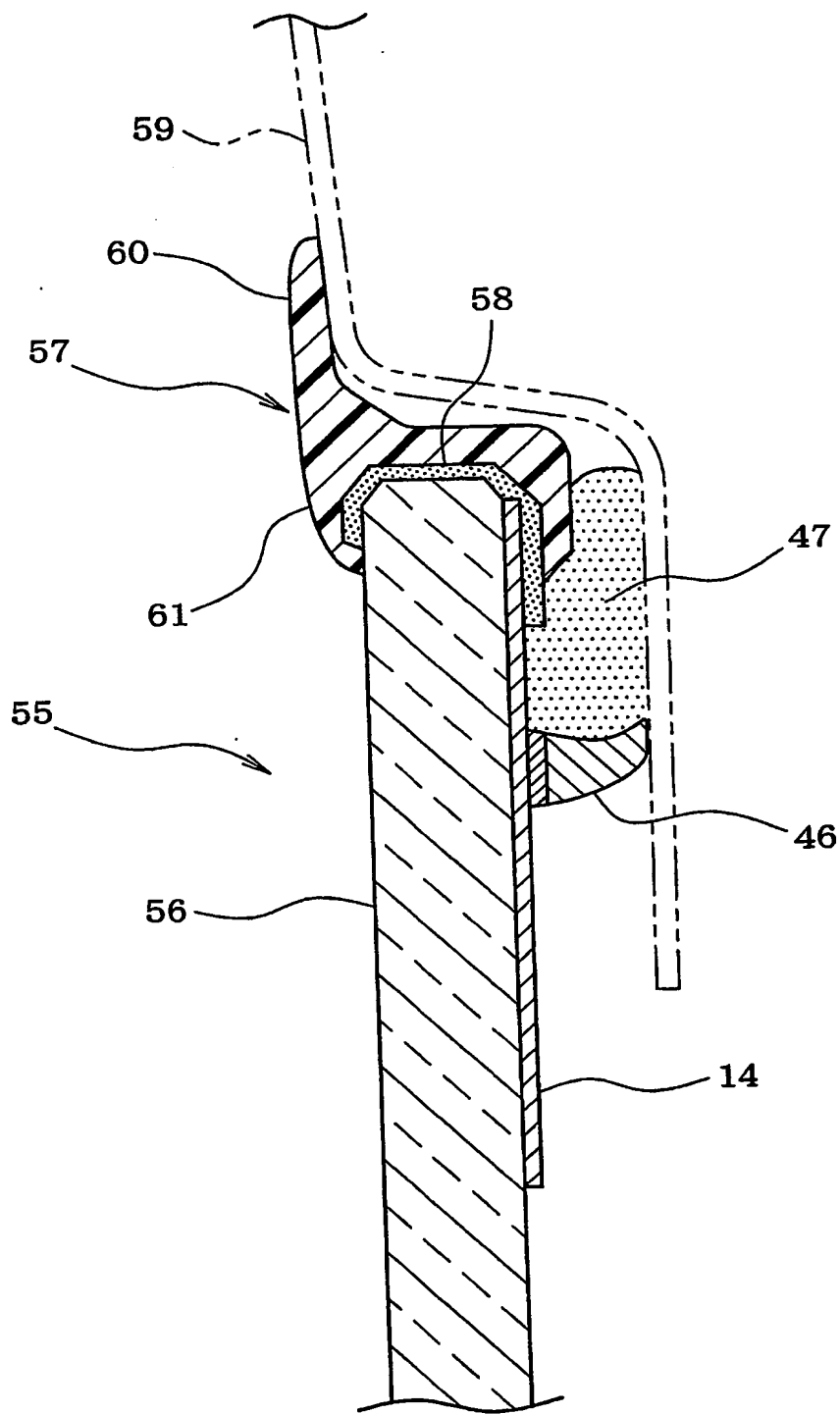
【図 10】



【図 11】



【図 12】



C-C断面図

【書類名】 要約書**【要約】**

【課題】 窓組立体の製造時の接着剤塗布作業性と各接着予定領域の接着品質を向上させながら、遮蔽部材等の成形後に材料流動用連結部を簡単に除去できるようにする。

【解決手段】 窓板 12 の裏面のうちの遮蔽部材 15 の接着予定領域 S1 と、位置決め固定具 18 と保持部 20 の接着予定領域 S2 に、両方の接着予定領域 S1、S2 の接着剤層 31、32 が接着剤連続領域 S3 を介して連続するように接着剤を連続的に塗布して各接着予定領域 S1、S2 に接着剤を均一に塗布する。その後、射出成形型内に窓板 12 と位置決め固定具 18 をセットしてポリマー材料を射出して充填することで、遮蔽部材 15 と保持部 20 を接着剤連続領域 S3 以外の位置に形成される材料流動用連結部 42 で連結した形状に成形して遮蔽部材 15 と保持部 20 を各接着剤層 31、32 を介して窓板 12 の裏面に接着固定する。この成形工程後に、材料流動用連結部 42 を除去する。

【選択図】 図 7

特願 2003-274994

出願人履歴情報

識別番号 [000219705]

1. 変更新月日	1990年 8月 6日
[変更理由]	新規登録
住所	愛知県大府市長根町4丁目1番地
氏名	東海興業株式会社

特願 2 0 0 3 - 2 7 4 9 9 4

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[5 9 1 1 6 6 2 6 0]

1. 変更年月日

1 9 9 1 年 7 月 3 日

[変更理由]

新規登録

住 所

愛知県岡崎市栄町 2 丁目 2 2 番地

氏 名

タカラ化成工業株式会社